

新スタジアムを アジアサッカーの 聖地に!

ガンバ大阪社長

野呂輝久さん

(取材日の前日、Jリーグチャンピオンシップファイナル第1戦が行われた。)

—— 残念ながら、ガンバ大阪は、ホームでサンフレッチェ広島に2-3と敗れました。

さすがに広島は年間勝点1位のチーム。守備が堅くて「かちかち山のタヌキ」でした(笑)。

面白いのは、ガンバの長谷川健太監督も、広島の森保一監督も、1993年の「ドーハの悲劇」の選手。1点の重みを肌身で感じているからか、どちらも強固な守備で結果を残しています。

—— 野呂社長は、J2降格直後の2013年1月に代表取締役社長に就任し、1年でJ1に復帰、2014年シーズンはJリーグ、ナビスコカップ、天皇杯の3冠を達成しました。今期もナビスコカップ準優勝、Jリーグチャンピオンシップファイナル進出、また天皇杯優勝の可能性を残しており、素晴らしい結果を残していますね。

ガンバ大阪は、J2の序盤も苦勞し、2014年のJ1シーズンもリーグ中断時まで16位と低迷していました。

でも、私は、サッカー経験がないので、サッカーの助言などできません。

監督と話すといっても、飲み会ばかり。まあ、一杯飲んでぐだぐだで(笑)。

でも、1977年に現在のパナソニック株式会社に入社して、約40年、企業で働く中で組織マネジメントを学びました。企業もサッカークラブも、組織マネジメントで重要なのはチームワーク。チームワークを高めるため、監督とのコミュニケーションは大切にしています。

—— サッカーにおけるガンバの目標は何ですか。

最大の目標は、アジアチャンピオンズリーグ(ACL)で優勝することです。これはガンバだけではなく、Jリーグ全体の目標であると思います。ガンバは、日本のクラブがACLで優勝できるよう、Jリーグ全体で努力しようと声を掛けていま



す。JリーグのチームがACLで勝つことは、日本代表のレベルアップにも繋がると思います。

—— ガンバ大阪は、2014年よりアジアでのマーケット拡大等の一環で、インドネシア遠征を実施していますが、アジア遠征もチームの強化に繋がっていますか。

はい。ガンバ大阪は、サッカー人気が高いインドネシアをはじめとするアジア諸国において、マーケットの拡大とチーム強化・育成に取り組んでいます。2015年1月にはトップチームがインドネシア・ジャカルタに遠征し、地元チームと強化試合を行いました。

アジアで結果を残すなら、アジアでの試合経験を積む。昔と違って、今の子どもは人工芝が当たり前で、泥だらけの劣悪なピッチでのプレーの経験が少ない。若い頃からアジアの厳しい気候やピッチでも戦える力を養わなければ、ACL優勝どころか、予選すら突破することはできません。

—— アジアでも勝てるチームになるには、若手育成が鍵ですね。

JリーグとACLで勝ち続けるには、2チームくらいの戦力が必要不可欠です。チーム内で絶えず選手間の競争を保ちながら選手層を厚くする必要があります。特に、若い選手に実戦の機会を増やすことも重要です。

—— 今年2月中旬より、待望の新スタジアムでのプレーが見られますが、野呂社長は、社長就任前から新スタジアムの建設に携わっていたのですよね。



©ガンバ大阪

2012年1月に、パナソニックから、ガンバのスタジアム建設本部の本部長に、4月に取締役副社長に就任しました。

新スタジアム「市立吹田サッカースタジアム」は、日本初「寄付金でつくるスタジアム」として2008年に構想がスタートしました。関西財界、サッカー界、ガンバ大阪を中心とする「スタジアム建設募金団体」が、2012年から募金活動を開始、個人、法人や日本スポーツ振興センターからの助成金等によって建設費の140億円を賄い、完成したスタジアムを吹田市に寄贈、ガンバ大阪が指定管理者として運営するという構想です。

しかし、まさかのJ2降格で募金集めは予想以上に苦労しましたね（笑）。私は3年間ずっと募金活動をしていたので、社長ではなく「募金のおじさん」と言われていました（笑）。

スタジアム建設募金団体では、弁護士と公認会計士に監査役に就任していただき、毎月、監査報告をしていただきましたね。

—— 新スタジアムの特徴は？

客席最前列までの距離はタッチラインより7m、ゴールラインより10mと、手が届きそうな距離です。4万人収容できますが、横浜国際総合競技場のトラック内にスタジアム全体がスポリ入るぐらい、コンパクトなサッカー専用スタジアムです。

また、ソーラーパネルによるエネルギー創出、トイレや芝生に雨水を利用するなど、環境に配慮しています。最高の芝生の状態にするため、スタジアムの下を全部開けて風が通るような仕組みも導入しました。

—— 「防災拠点」といった点もスタジアムのコンセプトに掲げられています。

有事の際の飲食物の備蓄倉庫を設置しています。

また、災害や事故が発生した場合、迅速にピッチ等の安全な場所に観客を誘導できるような構造となっています。ヨーロッパのスタジアムも視察しましたが、一番アドバイスを受けたのは、観客の安全を確保するための対策ですね。

—— 付近には日本最大級の大型複合施設「EXPOCITY（エキスポシティ）」もオープンし、万博公園付近は賑わいそうですね。

新スタジアムの周囲は、ショッピングセンター、水族館、映画館などの大型複合施設、緑の豊かな万博公園など、生活・文化の拠点として、大変魅力あるエリアです。

新スタジアムも、ベンチやロッカールームなどを間近に見てもらおうスタジアム内ツアー、地域のサッカー大会、VIPルームの会議室利用や、コンコースなどを利用した展示会など様々なイベントを開催して、サッカーの試合がない時でも楽しめる地域交流の拠点にしていきたいです。

弁護士の先生方も、新スタジアムで市民向け無料法律相談会を開催しませんか？部屋は有料になりますが（笑）。

—— ガンバ大阪は、1993年Jリーグ開幕当時から、地域活性化のための活動に熱心ですよ。

ガンバ大阪は、吹田市、茨木市、高槻市、豊中市、摂津市、池田市、箕面市を中心に、北摂・北河内地域14市3町をホームタウンに定め、精神障がい者サッカー・フットサルや少年院訪問など、サッカーを通じて社会復帰を後押しする活動を行っています。また、継続的に小学校を訪問し児童とふれ合う活動も積極的に実施しています。

このような活動は、若手選手の社会人としての成長の後押しにもなっています。

ガンバのトップチームのメンバー29名のうち14人が下部組織の出身者、11人が大阪府出身の選手です。彼らが率先してチームを支え、地域社会に貢献してくれるのがクラブの理想です。

—— プロサッカー選手が与える社会的影響力は大きいですよ。

プロスポーツ選手が人に夢や希望を与える力は計り知れません。それゆえ、選手やクラブが不祥事を起こした時の社会の落胆も大きい。ですから、プロサッカークラブにとって、法令や社会倫理を遵守する「コンプライアンス」は全てにおいて優先します。

現在、Jリーグ全体として「差別や暴力のない世界をサッカーから」という合言葉のもと、積極的に人権啓発活動を行っています。クラブから選手へ、選手を通じてサポーターや地域へ啓発活動を行っていくことも、大切なコンプライアンス活動の一つだと考えます。

—— 最後に、野呂社長の新春の夢を教えてください。

新スタジアムを「アジアサッカーの聖地」として、国内外から多くの人が訪れる場所にしたいですね。そのために、ACLに常時出場して再びチャンピオンに立ちます。そうしてアジアでガンバ大阪と新スタジアムが認知され、人気拡大を図ります。一方で、より一層地域社会に愛されるクラブを目指し、そして、多くの人が安全で快適にサッカーを楽しめるスタジアムにしていきたいです。

(Interviewer：伊藤隆啓、八十祐治／Photo：武田真実)